

平成28年度岡山ESD推進協議会
岡山ESDプロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 アナウンサー出張朗読会

団体名 岡山放送株式会社

担当者名 篠田 吉央

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

助成金を頂いた今年度はアナウンサー出張朗読会を過去最多の16カ所で開催し、約2600人の子供たちの前で童話などの朗読や発声練習体験を行いました。朗読では新作のオリジナル童話「その後の桃太郎」を中心に相手の立場に立って考えることの重要性を訴え、発声練習ではコミュニケーション能力の向上を図りました。

<今年度活動実績>

- ① 6月1日 岡山市立曾根小学校 全校50人
- ② 6月10日 岡山市立馬屋下小学校 全校130人
- ③ 7月1日 新庄村立新庄小学校 全校40人
- ④ 7月13日 吉備中央町立上竹荘小学校 全校60人
- ⑤ 8月24日 ESDいきものフェスタ@イオンモール岡山 親子100人
- ⑥ 9月26日 高梁市立有漢東小学校 全校50人
- ⑦ 10月12日 岡山市立牧石小学校 2・3年生90人
- ⑧ 10月26日 西粟倉村立西粟倉小学校 5・6年生30人
- ⑨ 10月26日 勝央町立勝間田小学校 全校420人+保護者60人
- ⑩ 11月7日 早島町立早島小学校 1～3年生410人
- ⑪ 11月23日 おもちゃ王国@玉野市 2回300人
- ⑫ 12月20日 坂出市立坂出小学校 1年生100人
- ⑬ 2月8日 赤磐市立山陽小学校 4年50人
- ⑭ 2月15日 里庄町立里庄西小学校 5年60人
- ⑮ 2月21日 総社市立総社中央小学校 2年70人
- ⑯ 3月2日 岡山市立妹尾小学校 全校550人

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

- ・従来の朗読に加え朗読作品内容について児童たちに考えてもらう時間を多く設けました。特に「絆」や「物事の多面的な捉え方」については児童たちとディスカッションする機会も得られ、学びの場につながったと思います。
- ・小学校を訪問する中で、児童たちが将来の職業について考えるキャリア教育に関してのアドバイスを求める声が多かったことから、アナウンサーを目指した理由ややりがい、心がけていることなどを説明する場を設けるように内容を改善していきました。
- ・岡山市から提案頂いた、いきものフェスタでの朗読会では、インタビュー講座を開設し「好きな生き物」をテーマにインタビュー術と生物への理解を深めました。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

- ・朗読会で学んだ表現方法や発声をその後の授業などでも活用し、トレーニングを積んでいるとの連絡が訪問校からありました。また、朗読会を体験できなかった学年に対して体験した学年が指導する場面が見られたり、合唱などにも応用しているとの連絡があり、活動が広がりを見せていることを実感しています。
- ・訪問校の児童から多くのお礼状を頂いています。頂いたお礼状はアナウンサーで回覧し、OHKアナウンサー一同が朗読会を通じたE S D活動の重要性を再認識する機会にしています。毎回の反省や気づきに加え、子供たちの声が私たちアナウンサーにとっても学びの場となり、よりよいE S D活動につながっています。

4. 今後の課題と展望

- ・岡山県内の全自治体での朗読会活動を目指していて、朗読や発声練習を通じたE S Dへの理解が県内全域に広がることを願っています。
- ・いきものフェスタのようなE S Dイベントでの連携は、OHK独自の朗読会の枠を越え新たなE S D活動の可能性を感じさせました。今後も様々なステージで朗読会を通じたE S D活動を進めていくとともに、他団体とのコラボレーションを実現し、E S Dへの理解を深めていけたらと考えています。



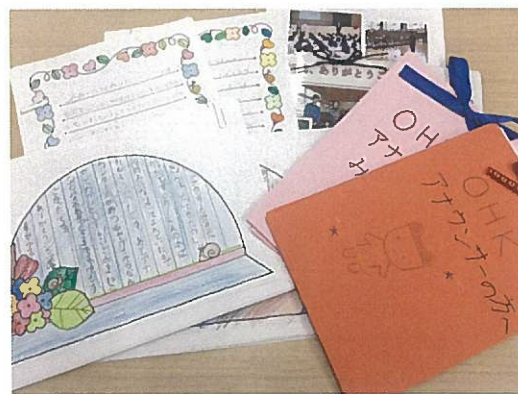
「絆」や「物事の多面的な捉え方」について朗読



保護者も参加



腹式呼吸を体験



お礼の手紙も

- ・参加者に配布している「岡山市内のフェアトレードマップ」に対する反応が比較的良く、「これまでどこでフェアトレードの商品を売っているか分からなかったが、このマップでどこに買いに行けばよいか分かる。案外自宅の近くにもお店があることが分かった。」といった声も聞かれた。

4. 今後の課題と展望

- ・現時点では、1回のイベント参加者は5~40人程度とばらつきがあり、公民館開催の講座やイベントでは小規模なものが多い。今後は、イベントの頻度を増やすこと、より広く告知を行うこと、予め計画を立て早めの告知をすることなどで、より多くの方が参加できるようにしたい。
- ・参加した方にとっては、年1回、2回程度のイベントだと、その時は意識するもののだんだん記憶が薄れていってしまう、ということがあると考えられるため、意識を継続して行動できるよう、連続講座のような形で学びの場を提供していくことが必要だと考える。
- ・活動継続にあたっては、他の岡山ESDプロジェクト参加団体の協力を得て、共同開催することや、県・市の消費生活センター、岡山県国際交流協会、友好交流サロン（岡山市国際課）、岡山大学、ノートルダム清心女子大学、高校、市民団体、企業などの協力を得て、活動を継続していくことが必要となる。
- ・現時点で、前述のものもはじめ各ステークホルダーとのつながりができつつあることから、今後そのつながりをさらに広めていきたいと考えている。
- ・今後、出前講座の実施回数等も増やしていきたいと考えているため、講師となるスタッフの育成が必要となるため、事業の展開とあわせて基盤強化が重要と考えている。